短 報

十二指腸平滑筋肉腫の1例

三井記念病院外科¹⁾, 同 中央検査室病理科²⁾, 新小川町クリニック³⁾佐藤 之俊¹⁾ 小海 陽子²⁾ 山村はるみ²⁾ 前川原貴美子²⁾早川 和志³⁾ 高梨利一郎²⁾

I. 緒 言

術中穿刺細胞診により診断された十二指腸平滑筋肉腫の1例を経験したので, 細胞学的所見を中心に報告する。

II. 症 例

患 者: 45歳, 男性

主 訴: 右上腹部腫瘍

家族歴, 既往歴: 特記すべきことなし

現病歴: 平成3年11月人間ドックにて施行された腹部超音波検査により右上腹部腫瘍を指摘されたため, 精査を目的に当院放射線科を受診した。画像診断上十二指腸原発の粘膜下腫瘍と診断し, 手術目的にて平成4年1月9日当科に入院した。

経 過: 入院時右上腹部に直径約12×10 cmの表面平滑で弾力性を有する腫瘍を触知した。腹部CT上十二指腸から臍頭部にかけて内部濃度の不均一な腫瘍を認め, 血管造影上腫瘍は前, 後下臍十二指腸動脈, 後臍動脈ならびに後上臍十二指腸動脈より栄養血管を

有していた。上部消化管内視鏡では十二指腸下行脚に壁外性圧迫を認めたが, 粘膜には異常を認めなかった。以上より, 十二指腸原発の粘膜下腫瘍(平滑筋肉腫疑い)と診断し手術を施行した。

III. 術中穿刺吸引細胞像

紡錘形の細胞質を有し, 核の大小不同を示す細胞が集合性, 一部散在性に出現していた。配列は束状不規則で, 細胞密度はきわめて高かった。核縁は比較的円滑であるが, 一部に切れ込みのあるものを認め, 核クロマチンは増量し顆粒状で比較的均等に分布していた。一部の細胞では核の連珠状配列がみられたが少数であった。核分裂像は認めなかった(写真1)。以上より分化した平滑筋肉腫と診断した。

写真1 穿刺吸引細胞像

- a: 紡錘形ないし線維状の細胞集団 (Pap. 染色, ×200)
b: 核の屈曲と大小不同, 明瞭な核小体を認める (Pap. 染色, ×400)

A case of leiomyosarcoma of the duodenum
Yukitoshi SATOH¹⁾, M.D., Yoko KOKAI²⁾, C.T., J.S.C., Harumi YAMAMURA²⁾, C.T., J.S.C., Kimiko MAEKAWARA²⁾, C.T., J.S.C., Kazushi HAYAKAWA³⁾, M.D., and Riichirou TAKANASHI²⁾, M.D.

¹⁾Department of Surgery, ²⁾Section of Pathology, Central Laboratory Medicine, Mitsui Memorial Hospital

³⁾Shin-Ogawacho Clinic

論文別刷請求先 ☎ 170 東京都豊島区上池袋1の37の1 癌研究会附属病院外科 佐藤之俊

平成4年5月27日受付

平成4年9月4日受理

写真 2 組織像

a : 分化型平滑筋肉腫 (H-E 染色, $\times 100$)b : 広汎な中心性壊死を認める (H-E 染色, $\times 40$)

IV. 病理所見

腫瘍は大きさ $16 \times 9 \times 8$ cm, 重量 420 g で十二指腸下行脚より管外性に発育していたが, 他臓器浸潤は認めなかった。組織学的に, 腫瘍は紡錘形細胞が束状不規則に配列し, 核は楕円形から卵円形で, 細胞質は淡エオジン好性であった。核分裂像は少数しか認めなかったが, 細胞密度が高いうえに, 一部では細胞異型の強い細胞が存在し, さらに多核巨細胞を認めたこと, 腫瘍の中心に著明な壊死を認めたことより, 平滑筋肉腫と診断した (写真 2)。

V. 考 察

十二指腸原発の平滑筋肉腫は比較的まれであり, 小腸悪性腫瘍の 1~2% を占めるにすぎない¹⁾。臨床的には特異的症状に乏しく, 術前診断は困難であること

が多い¹⁾。確定診断に関してはいまだ有力なものはなく, 切除後の組織学的検索により診断されているのが現状である^{2,3)}。本例でも内視鏡的生検による診断は困難で, 術中の穿刺吸引細胞診により平滑筋肉腫と診断された。

一般に粘膜下腫瘍の質的診断に対して, 穿刺細胞診は有効であるとされる。しかし, 平滑筋肉腫の診断は穿刺吸引細胞診上困難を生ずることが多く, 特に平滑筋腫との鑑別が問題となる⁴⁾。本例においても, 腫瘍は細胞学的に比較的均一な細胞主体で, 核分裂像がなく, 平滑筋腫との鑑別が問題となった。しかし, 腫瘍の細胞密度が高く, 核の大小不同を認めたこと, 核形が楕円形から卵円形であり, 核クロマチンの増量を認めたことより肉腫と診断した。

VI. ま と め

術中穿刺吸引細胞診で診断された十二指腸平滑筋肉腫の細胞像について報告した。

文 献

- 1) 佐々木正寿・他：原発性十二指腸平滑筋肉腫の 2 例, 癌の臨床, 35 : 1177~1182, 1989.
- 2) 山根哲実・他：十二指腸原発の平滑筋肉腫の 1 例, 癌の臨床, 34 : 1036~1040, 1988.
- 3) Barkan, A., et al. : Leiomyosarcoma of the duodenum : two case reports and a literature review, Am. J. Proctol. Gastroenterol Colon. Rectal. Surg., 32 : 18~21, 28, 1981.
- 4) 森脇昭介・他：平滑筋肉腫の細胞学的研究, 日臨細胞誌, 17 : 333~339, 1978.